

令和7年度 医療センター事業報告

厳しい医療情勢の中、会員医療機関の協力を得て、運営の安定と健全経営に努めた。

しかしながら、医療センターとしての黒字化には至らなかった。検査依頼や患者紹介等、会員の皆様方のご協力を切にお願いし、引き続き収益増と経費節減に取り組み黒字化を目指す。

《事業項目》

1. 臨床検査部

- ① 日頃より業務内容を見直し効率的に業務を遂行できるよう努めた。
- ② システムを活用した会員支援を実施し、安定したサービスの提供に努めた。
- ③ 各部門と連携し、医療センターの運営に貢献できるよう努めた。
- ④ 検診部超音波検査業務を目的に育成を行っていた技師のうち一名が、検診部及び診療部での実務を開始した。
- ⑤ 外部委託先と連携し、FMS や検査業務について見直しを図るなどの定期的な話し合いの場を設け、情報共有を行った。
- ⑥ 精度確保の安定化を図り、厳密な精度管理に努めた。

2. 検診部

- ① 唐津市・玄海町の特定健診・がん検診を受託し実施した。また、自治体と連携し受診率や人口動態に沿った適正化を推進した。
- ② 事業所の各種健康診断及び生活習慣病予防健診、ストレスチェックを積極的に受託し、特に付加健診の実施が大きく伸びた。
- ③ 人間ドックのサービス充実を図り、受診者の満足度を高め、リピートを促した結果、受診者数が増加した。
- ④ 会員医療機関の特定健診等の代行入力業務を行い、個別健診の円滑な実施に協力した。
- ⑤ 契約医療保険者からの特定保健指導を積極的に実施した結果、受診者数が大きく伸びた。
- ⑥ 学校保健安全法に基づく学童・生徒等の各種検診を実施した。
- ⑦ 多様な検診実施・ニーズの変化に対応するため、職員の資質向上を図った。

3. 診療部

- ① 会員からの紹介患者に対し、積極的かつ迅速に対応し、収益の確保・安定化を図った。
- ② 急性期一般入院基本料6を維持し、平均在院日数及び病床利用率のバランスを図った。
引き続き下記を重視する。
 - ・地域包括ケア病床を活用する。
 - ・地域連携室を活用し、紹介医との連携を強化する。
 - ・紹介患者の受け入れを円滑にし、新入院患者数の増加を図る。
- ③ リハビリテーション診療の今以上の強化を図った。

4. 諸会議

- ① 管理・診療会議、各種委員会
- ② 九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会（福岡市／7/5-6 開催）